新聞社の出前講座をお願「新聞づくり教室」を企画

ました。

くて、

昨年夏、

年夏、公民館主催ルに入選してほ

コンクー

Vewspaper

Education in

は東京都の34校に次いでお決められ、道内の32校が決められ、道内の32校ので、割り当ての「枠」の32校のでは、近内の32校のでは、

(5月決定)と第2次(7

団認定校は、

月17日に開

進協議会の独自認定校7校が内定した。財団認定校については、

く財団NIE委員会で正式決定される。

団認定校32校(第1次)

の推薦が固まったほか、

北海道NIE

[財団認定]

5

6年度の道内NIE実践校は、4月中

句までに日本新聞教育

決定)の2回に分かれ

教育に新聞を

札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内 〒 060-8711

北海道NIE推進協議会

7011-210-5802 FAX 011-210-5826

実本 践年 校度

発行

2年経ちました。 多くの子どもたちが新聞

W 1

Н

のうち、

W H Y

邨らお

生涯学習推進アドバイ北 広 島 市 中 央 公 足

央公民

-ザー 館

く見る、

の意味がある②5

と、公民館の仕事に就いて最後に教員生活を退いたあ。恵庭市立島松小の校長を

Е W S

演内容は①ニュー

は英語で新し

iv N ス

実に

化に気付き、四方を視野広文字。身の回りの新しい変文字。身の回りの新しい変し、「北・東・西・南」の頭EW)出来事の複数形を意味

校と新規校が同数と なった。 自認定校は、

一方、推進協議会の独 高で3校、中学校9校、中 校5校、中学校5校、中学校5校、中学校5校、中学校5校、中学校5校、中 校種別内訳は継続校が、 いずれも

都中、 古内鶴岡小、足西小、足寄 

回前田中央小、同中 ◇新規=札幌前日 都高、別海高 田山 鼻小、

南

比べ1校増え、過去最多らって33年度から行って50年度は50年度に実践教諭の底辺拡大をね 一貫校1校、高校1校。中学校3校、中亭 内定校は次の通り。次)と協議会の独自認定 校、中学校3校、中高校種別内訳は、小学校 財団認定推薦校 (第1 N I E活 **一動の普及と**の中から選ん 

となった。

[協議会独自認定 相川実業高 他川実業高 他川実業高 、函館白百合学園中高、 鹿追中、函館椴法華小、道教育大付属札幌岩見沢美園小、浦河東岩見沢美園小、浦河東

実践経験校は136校 05年度までの10年間

たこととの

0)

える情報」で新聞記者を招い の社会科の授業「くらしを支教員時代、小学校5年生―などでした。 て体験談を聞きましたが、

の全体や真実が見えてくる を大切にすると物事

子どもたちは

とが欠かせません。そうす習も、まず教室を飛び出し、習も、まず教室を飛び出し、習も、子どもたちの調べ学のら、子どもたちの調べ学をがら、子がある。ですが、まず、おり、おり、おり、おり、おり、という。 いたことと、 頭の中で思って

てるかが主眼となります。情報の選択能力をいかに育の情報教育です。そこでは、ほとんどは「総合的な学習」 くこと」を理解したのです。 小学校のNIEの実践の 、際に調べてから記事を書出てさまざまな角度から ました。
について、記者の話を聞きについて、記者の話を聞きに分解して、記者の話を聞きにのいて、記者の話を聞きにのいて、記者の話を聞きました。1回座」を2回開きました。1回 公民館では、その後、今年かす力が培われるのです。を繰り返すことで学習に生課題を持ち、調べる実体験 に気付きます。 聞いたりしたこ 3月までに成人を対象にし 座」を2回開きました。1回た「新聞を暮らしに生かす講 調べる実体験こととの違い

しにどのように生かしていび付け、新聞を豊かな暮ら自らの課題や生きがいと結生涯学習の観点に立ち、 考えています。 た講座を続けていきたいと ·のか、これからも、こうし て暗記する。これが音 読・朗読のすばらしさで ある▼新学期が始まった が、子供たちは本を読む 時間もなく忙しい。「脳 の活性化」を図るため、 「脳 でであるである。 でいる でいる てほしい。 ではなく家庭にも響か た音読や朗読を学校だけ

<

音読・朗読の楽しさ

がリズミカルに思 教室の窓から立 た。ところが今、 学習の基礎であっ こえたのは一昔 のことである。 ,時代から「読み、 江前聞声



\*

0) くことの大切さを訴えてり、目を輝かして集中を 増す幼児期の読み聞かせ に始まり、子供が声を出 して本を読む、その言葉 の響きに日本語の美しさ だ」と、声を出し耳で聞じるのは朗読を聞くときじるのは朗読を聞くとき まった▼黙読を中心としまった朝読書は定番になっている。最近国語の教師ら良さを見直し始め、教科の音読、作文や詩など 

した 4 回

道内からは、

日本

が特別出席し、 論をはじめ、 新聞活用授業に取り組んでいる各地の実践教 国高校NIE研究発表大会が3月25、 「NIEで伸ばす学ぶ力」をテーマにした全 東京・お茶の水女子大付属高校で開 同校の公開授業には、男子校の生徒 新聞社の関係者約100人が参 活発な意見が交わされた。 26 かれ、 0) 両

## 仕事と家庭」

連載記事で公開授業

横浜国立

NIE 大会 徹也・横浜国立 通信記者の鷲見 演では、元共同 る、と呼びかけが最も重要にな 力を育てること るためには想像 情を正確に伝え 自分の考えや感 ションに触れ、 のコミュニケー 大講師が高校生

論が指導し、新 料の田中京子教 業は、同校家庭

道内実施校 1増の6校

「すべての教室へ新聞を」

3校、新規3校の合計6校の合計6校で、新規3校の合計6校の教室へ新聞を」運動の6の数室へ新聞を」運動の6のでは継続のでは、近日本新聞販売協

5社(朝日、毎日、読売、同協会北海道本部、新聞5月から新聞提供が始まる。で、05年度より1校増えた。

育文化財団は、同運動をで組織している日本新聞教で組織している。新聞各社に限定している。新聞各社を対象に04年度から実施がある。 決まった。 進協議会の 経、 北海道)、 「3者協 道 N I E 議

で推 事業」と位置付は「NIEのフォロ 手▽山▽ 南新鼻継 小、規中続 り。 06年度の実施校は次の7ている。 札幌旭い百合が一 陵 東小、 け、 <u>П</u> 丘原 高小 幌西 支援

山

たいと思っている。たことを少しでも実践して

とに、これまで実現できなかっ

小

通

した4回目の研究発表大(高橋通泰会長)が主催全国高校NIE研究会 ながら、 うできるかどうか」 らないから、 妻を食べさせなければな 生きていきたいけれど、 について学んだ=写真=と家庭生活との両立など 和)」に賛意を示した。 た「ワーク・ライフ・バ ランス(仕事と生活の調 好きな音楽の世界で 載記事を参考にし 働くことの意義 果たしてそ

学習課題を訴えた。 高めるためのそれぞれの 高めるためのそれぞれの 実践教論が、学習意欲を くってほしい」などと はなく、 ばかりを取り上げるので て、 は、 と優位性を気付かせた 証性を持つ新聞の重要性 のテレビ、インターネッ 教諭は「速報性、 久雄·長野県松本筑摩高 テラシーに言及した有賀 に目を向ける機会をつ てほしい」「目立ったもの 写真の使い方を考え直し 強くなってしまうような 佳津·奈良県桜井高教諭 い」と強調。また、矢野 トの時代だからこそ、 この中で、メディアリ た生徒の意見を取り 「男性のイメージが 新聞社への要望とし 目立たないもの 即時性 検

構、プレッシャーになっ 経済力を求めるのは、結 は「私たちが結婚相手に 彫りになる場所 男女の目線の5 3会場に分かれ、 高の男子生徒がこう別出席した明大付属 かった」と感想をもらし、 ているということが分 したのに対し、女子生徒 2日目の研究発表は、 る。 和違 がこう発言 が 浮き 明

上湧別町立上湧別中教諭

とめていった。しかし、やはりトから検索を行い記事を探しまには慣れており、インターネッ 書いてあることをただ羅列してどを工夫してはいるが、中身は ことを実感し、後半は一つの テーマを設定し、それにつ 面的にとらえることが出来な めることは出来たが、 いるだけ…。 るというところまで す」だけに終わってしまう子が「書かれていることをただ写 じっくりと記事探しを行った。 子どもたちはパソコンの操作 物事を多面的にとらえ 調べたことをまと 物事を多 いて 11

-アップ

り、赴任して2年目のこの学校性は受けていなかったが、NIEに関する取り組みを行ってお供は受けていなかったが、NIEの実践校になるきっか 受けることにした。

新聞を作った。題字や見出しなを取材に行き、それらをまとめのグループを作り、町内の施設赴任して1年目は、4~5人 という軽い気持ちで新聞提供を でも「同じようにできるよなぁ」

…」といろいろと考えていたが、 実際に提供が始まると毎日来る 下を教科との連携が上手くとれず にただ、時間だけが過ぎていっ でしまい焦る一方だった。 何とか実践をしようと2年生 の総合的な学習の時間で行って れている新聞を活用し「5W1 日を探そう」「傑作見出しを探そ などの実践を行った。 を読む習慣がつ

もたちにとって り読んで、どの いていない子ど 記事をじっく

う教科で新聞を教材として活用 する場面がなかったこと、国語 がったことが心残りである。新 活用できる場面で連携できな がったことが心残りである。新 がったことが心残りである。新 実践1年目を終えて感じること 2年間の新聞作りとNIEの りの新聞になってしまった。 れ」である。自分自身、数学と 新聞は完成したが、やはり「書かは大変な作業となった。何とか ましてや「自分たちが記者と は、「指導する側の準備不足」と れていることをただ写す」ばか なって、新聞を作る」ということ を考えるのは難しいことであり、 ような構成になっているのか」 「普段の生活の中での活字 い離

して…」「総合の時間を上手く活には「国語や社会の教科と連携提供を受けることが決まった時提供を受けることが決まった時

用して…」「全校的な取り組みを

鈴

## 北海道 NIE 研究

第2回道央支部NIE实践交流各及U

北海道NIE推進份議会小产会話

月 24 日 熱心に意見を交わした。 で実践交流会を開き、 下部憲一札幌米里中校長) が2 な新聞活用授業の展開に向 海道NIE研究会 (会長= 年 旗 北海道新聞社会議室 (揚げした教員組織 効果的 け、  $\ddot{\mathbb{H}}$ 0)

## 交流会で意見交換

P成を目 E 日指して<br />
当推進協<br />
上実践リーダーの

ニュースを配信している新聞100ページ分の社長が講演し、「一日に同通信社の吉田哲札幌支 鈴木教諭は、この中で、 れ授業内容を発表した。 山西敏博助教授がそれぞ 協議会に加盟して 「教師サイドが研究し、 実践発表に先立って、 いる共

30人を超えた。昨年9月30人を超えた。昨年9月に続く2回目の交流会で、今回は、実践発表のほか、同研究会の道央、道南、可研究会の道央、道南、あずロック活動報告があった。

=札幌•前田中央小5年生

の旭川大学(学生580が浸透するなか、旭川市

よた、新また、新 八、道南、道北、そ新組織の設立に際 ı

置くとともに、事務局は各

して道東の4つの支部を

支部と密接な連携、

交流を

や各ブロッ

クの活動

報告

I I

I

Ī

ı

I I I

ı

I

I ī

ī ī

Ī

考えてさせ i i

消し、本会を没てような教育研究会を発展的に解 年5月、 北海道·新聞

ができました。

日下部憲一 (札幌市立米里中校長)

ております。 を図っていきたいと考え を図っていきたいと考え そして本年2

昨年9月、

ができました。本会発活発に意見を交わする題や今後の方策についなどを通してNIEの かすこと いのて課

本会への一

一げます

交流会を開催し、実践発表月に道央支部NIE実践 ております。 新聞旭川支社と相互交流の協力協定を結んだ。また、苫小牧市の苫小牧駒沢大学(学生470人)ま一時から新聞記者が選択教養科目の教壇に立った。まかのでは、 新聞旭川大学が経営=が なり、3月初め、北海道 なり、3月初め、北海道 なり、3月初め、北海道 は11大学が経営=が 人)と旭川女子短大(同人)と旭川女子短大(同 年目ではありますが、 I ている。 -----旭川女・旭川女 女子 る事 ī

ね着

となく、 会の発展につながるもの目指していく」ことが、本そして役立つ実践交流を と確信しております。 会の発展につながる 会員の皆様には、 各支部で「 気軽に、 「背伸びするこ 楽しく、 今後と

# 旭大と苫駒ナ

報告では、旭川緑が丘小伸ばしていく」と強調した。また、ブロック活動た。また、ブロック活動と供は確実に応え、力を

ある。実践の進化を期待 もできることはたくさん Eの実践認定校でなくての菊池安吉教頭が「NI

たい」と呼びかけた。

、力を一

ているが、北海道新聞社が記者らを講師として派講座」を展開する一方、北海道新聞社がインターンシップ(就業体験)の

これから詰めることにの具体的な学習内容は

(学生580 層のご支援 るとともに新聞記事を活動について理解を深めて通年で行い、NIE 抱いている。地域に分け は生活学科と幼児教育学 は「活字離れによる国民 がある。山内亮史学長 は「活字離れによる国民 で、旭川女子短大 月)、後期授業(9―1けた。前期授業(4―7新聞記者による講座を設 海道教育大釧路校と北海道内では、05年度、北使った授業を展開する。 む」を開設した目の連続講座 授業で同じく教養選択 入ることで、 合意した。 生を支援することなどで アへの就職を希望する学 場を提供し、 元学で、旭川女子! 旭川大は経済学部 マスメデ 女子短い 科期海江E 10

ねてからコミュニケー 苫小牧駒沢大も国際文きたい」と話している。 も、協定を具体化していの理念を実現するために 普遍を知る新聞社と共通 ていたことから、新たに ションの探究に力を入れ 世界を見、地域に分け

# 活字離れ対策に

ちが書いた原稿や、=写真左上=。子ど

として配備したも 学校・学級新聞の製作にができる機能を生かし、単内で記事の入力や印刷として配備したもので、 推進など多目的活動バス7月1日。NIE活動の刊133年を迎えた05年 ーを導入したの を持つ当社がニュ 力を発揮している。 紙として最 古の 年創ス歴

の新聞作り

1

ヘカー は、

センターのスタッ

山梨日日新聞社がニュースカー「山 日メディア1 (ワン)」=写真下=を 活用して小中学生の新聞作りを支援 教師だけでなく、児童・生徒から も「新聞が身近になった」などと喜ば れている。そこで、そのねらいと活 動ぶりを同社に寄稿してもらった。

ほっかいどうNIE通信

のぶの らの が活用をねる間離れ対策 北海道新い 過新ぶん

りの活動で、 かけた。旧の実践校を中心に NIEの新当初は手探 呼び

## 9 カ月で23校訪 問

全長 7メー

し、記事を入りいるという

力

パしたり、

面

できるパソ [をレイアウ

プリ

中学校9)を数え、一校た学校は32校(小学校4)、 (小学校4)、 (小学校4)、 (小学校4)、 (一様4)、 (一様5)、 た。中身は、た新聞は90種 で数種 類 0) は、修学旅行や90種類にも上っ多いため、作っ いため、作っいため、作っ

、リー」で紹介している。集「山日こどもウィークを新聞は、本紙NIE特 書いたところも。完成しまでして記事を聞くなどして記事を 学校や、 実態を調べて紙面化した の書いた原稿が新聞記児童・生徒からは「自 「福祉と人権」 0)

○…待望の球春が訪れた。プロ

野球は早くも、開幕ダッシュに

成功したところと、出足でつま

ずいたところの明暗がくっきり。

監督の采配ぶりの違いも大いに

○…以前と大きく異なり、現代

野球は投手の継投が試合の流れ

を大きく変える。中継ぎ、抑え

役のリリーフ陣は、来るべき

「出番」に備え周到なウオーミ

○…全国高校 NIE 研究発表大会

で公開授業を指導した、お茶の

水女子付属高の田中京子教諭は

授業に先立ち、その日の新聞を

生徒に自由に読ませ、視野を広

○…「新聞に目を通すのはまさ

にウオーミングアップなんで

す」 - みんなで感想や意見を交

わすと、教室全体が和み、一体

感が生まれるという。さりげな

ングアップが欠かせない。

興味をそそる。

げている。

い NIE の実践だ。

式となっていて、編集作 車両の側面がはね上げ が製作できる。 印刷による新聞(A3判) 業を見学することもでき した写真をもとにカラー 編集局の 子どもた を使って 撮影

段差などバリアフリーのが多い。中には、道路の子や感想をまとめたものです。 「学校から家庭・地域へ水戸市の茨城県立県民文が、7月27、28の両日、化センターで開かれる。 ローガンに、全広めようNIR 推進協議会などが主管すが主催し、茨城県NIE N I ガンに、 Е 本新聞 教育文化財 E E e

サンケイスポーツ、 ツニッポ など

ス

スス りま ら藤井正友 NIE推進センター)の上出義樹(北海道新 3月末で退任し、

(藤)

## 多目的力一導入 全国の5新聞社

を進めている。 西日本新聞の4社が導入の準備

る。 (向山文人編集局次長) 感想が寄せられてい



全国NIE大会 城県水 戸 市で ---7月

スポ

]

ツの名場面

関かれている。 開かれている。 開かれている。 開かれている。 開かれている。 開かれている。 た「スポーツ新聞展」がの報道ぶりなどを紹介し撲の歴史、オリンピック Ŧī. 本新聞博物館(横浜 輪報道など紹 浜の新聞博物 ツ カー、 介

相

内 11 Ш ||情が で 横

推進協議会事務局長 に 4 代月 新 わかは聞

事 務局長が交代

7月17日まで 曜日休館) 0)

が同センターで行われる。 W杯の記念シンポジウム て開幕を控えたサッカー には、 関連イベントとし ほか、5月5日 を展示している の紙面、写真パ スー の「こどもの に残る名場面やが協力し、歴史 パースター ツ新聞6 É

パネルディスカッション、し、記念講演をはじめ、教育・報道関係者が参加 公開授業、

推進協総会は来月27

定時年次総会は5月27

当推進協議会の6

年

日度

どを行う。 研究分科会な

日 無かれる。 れ海道 発

め年

参加者の交流を深める。間の活動計画などを決め間の活動計画などを決め